

人の予想を裏切る祝福(ルカ 7:11-17)

信者の私たちが、私は祝福されたという確信を持ってその救いを心から喜ぶようになれば、その人の残り生涯は勝利のものになるでしょう。しかし残念ながら、信者なのに自分は祝福されたものだという確信がなかなか持てないまま、だから当然、その救いを喜ぶことがなかなか見られないのです。となると、その人は仕方がなく、もうすべて終わったにもかかわらず、過去に囚われるようになります。今現在、私は祝福された最高の者だという確信と喜びがなければ、過去に囚われざるを得ないのです。希望の未来に向かって、答えの未来に向かって進むことができなくなってしまう。なぜ信者なのに自分は祝福されたということ喜んで噛みしめて味わうことができないのでしょうか。誰がそのようにさせているのでしょうか。それは私たちの方から見ると、祝福された人に対しての考え方、見方が聖書に書いてある通りではなくてこの世の見方のままなので、救われたにもかかわらずなかなかその確信が持てていないのではないかと思います。今日の聖書の箇所は、聖書全体がそうではありますが、人々が祝福に対して思っていること、世の中の祝福されたことに対しての見方などを全部ひっくり返して、その考え、予想などを裏切る話なのです。聖書すべてがそうですが、特に今日の聖書の箇所を通してそのことが確認できます。なので、今日の礼拝、今日の聖書の箇所を通して、私たちが今まで当たり前にかけていた、祝福されたことに対しての見方、考え方などが全部ひっくり返される。そのようなときになることを祈りたいと思います。

今日の聖書を見ますと、やもめに一人息子がいました。しかし、その一人息子が死んで、棺桶を担いでたぶんお墓の方に向かっていくという列だったでしょう。そこでイエス様が彼女が求めたわけでもないのに、そこにとどまって近づき、そのやもめをかわいそうに思い、その息子に向かって「起きなさい」と命じられることで、死んでいた息子が生き返って、やもめにその息子を渡すとみなびっくりしたわけです。ユダヤ人にとってやもめというのは、神様に見放されて呪われた者だという概念、イメージがありました。しかもやもめというのは、旦那さんに先に死なれて一人で人生を生きる女性のことです。一人の息子がいたのですが、その息子までも死んでしまった。最悪な状況ではないでしょうか。だから、みなもかわいそうには思っているのですが、神様に見放されて祝福とは縁のない人間だという見方をしているわけです。そこにイエス様が求めてもいないのにわざわざ近づいて、そのやもめの呪いを解き、やもめを祝福されたという場面のことなのです。これが神様の祝福です。なので、私は本当に祝福されたという確信を持って喜んで残りの生涯を今までとは違う勝利の主人公として歩むためには、今日の聖書を通してこのことをまず確認しないといけません。

1. 祝福に対する人々の考え(予想)

まず第一に、祝福に対して世の人々の考え、予想というものはどんなものなのか。私たちも同じ見方、同じ考え方を持っているはずなのです。その部分に気づいて、そこを修正できないといけません。

1) 祝福された人-健康、富、成功、平和…

世の中では祝福された人となったとき、健康な人を見て、あの人は祝福されたんだね。また、裕福な人、経済的に豊かに暮らしている人を見ると、あの人は祝福されたんだと見ているでしょう。社会的に成功をおさめた人を見たときに、あの人は祝福されたんだと。また中身はよくわかりませんが、外見を見ると家庭内が和気あいあいとして平和のように映るわけです。そういう家庭を見ると、あの家庭は祝福された家庭だと、私たちは当たり前に見ているのではないのでしょうか。でも本当にそうだからといって祝福された人々でしょうか。祝福されたと言えるものなのでしょうか。でも私たちにはそれが当たり前になっているのです。逆にそうでない場合は、祝福とは縁がない不幸な人なんだとつい思ってしまいます。いかがでしょうか。

2) 祝福される人-真面目、努力、能力、バック、人格、性格、教養

そして、これからこの人は祝福されるだろうと思われる人も、だいたい真面目な人を見ると、この人は祝福されるだろう。一生懸命努力する人を見ると、この人はこれから祝福されるだろうと思います。なぜかと言いますと、祝福に対しての概念がそういうものなので、努力する人が成功を手に入れられるだろう、

富を手に入れられるだろうと思うので、努力する人はこれから祝福されるだろう。他の人と比べてときに能力に優れた人を見ると、この人はこれから祝福されるだろうと。また、何かのバックグラウンドが結構すごい人を見ると、この人は祝福に有利なのではないか。人格的に立派な人格を持っている人を見ると、この人はこれから祝福されるだろうとだいたい予想します。性格の優しい人間、良い性格をもっている人は祝福に有利ではないか。教養が深い人を見ると、この人は祝福されるのではないかと予想して、そういう見方をするのが世の中の人々の見方、考え方、予想というものなのです。いかがでしょうか。私たちはどのように思っているのでしょうか。このような見方、予想は、因果応報的な見方と言います。こうだからこうなるだろうと。

3) 祝福外の人-イエス様の周り

そういう見方、そのような考え方から見ると、そうでない、それと反対の人々は祝福外の人、祝福とは縁のない人と思われるようになります。その代表的なケースがやもめです。しかも一人息子が死んでしまったとなると、もう最悪ではないでしょうか。だから、祝福とは縁のない人間、縁のない人生だ思われてしょうがないと思います。なので、当時、人々の予想とは全然違う祝福外の人と思われる人々がイエス様の周りにみな集まってきていたわけです。その代表的なケースがやもめという人として紹介されているわけです。イエス様の周りに集まっていた人々です。だから、パリサイ人はなぜあんな人たちと一緒に食事をしているのかということで指を指して非難したりしていたわけです。彼らの祝福に対しての概念、その考え方、見方がそういうものだったからです。

2. 予想を裏切る神様の祝福

なのに、イエス様が今日、そのやもめの葬儀の列を止めて、そこで奇跡を行われたということは、死んだ息子が生き返ったのがテーマではなくて、到底、祝福とは縁のない人に祝福が現れて、人々の予想を全部裏切るそのような祝福が神様の祝福なんだということを示している場面なのです。残念ながら、聖書には最初から最後まで神様の祝福に対してそのように教えているのに、クリスチャンの私たちがその聖書が教えてる通りにみことばを握って、自分の内側で見方を修正して、自分を見る見方、また人々を見る見方が変わっていないので未だに無気力なのです。いまだに過去に囚われて、世の人々の考え方などに振り回されているのです。そういう意味で神様の祝福は、人々の予想を裏切る祝福なのです。それが今日の聖書が私たちに言いたいメッセージなのです。

1) 予測不可能な祝福-漁師、貧乏、売国者、売春婦、泥棒…

つまり、神様の祝福は、人間側から見たときには予測不可能な祝福なのです。だからイエス様の周りに集まる人々を見ると、みながあの人にはもう希望がないと思われる仕事をしている者でした。つまり、魚を獲る漁師という仕事は、昔、本当に一番下っ端の下っ端の仕事でした。そういう人たちがイエス様の周りに集まっていました。それから経済的に食べることに困る貧乏な人間がイエス様の周りには集まっていました。それから人々にいつも指さ指される売国者と思われていた人々がイエス様の周りには集まってきていました。自分の体を売って生計を立てていくしかない売春婦をしている人々、あるいは泥棒のような人、そしてイエス様と一緒に十字架に死んで強盗の罪で死刑囚になっていた人等々の人々がイエス様の周りには集まってきていました。つまり、パリサイ人、普通の人から見ると祝福とは縁のない人、予測不可能な人がイエス様の周りに集まって、本当の神様の祝福に預かるようになっていたということが聖書のお話なのです。

2) 世の法則に当てはまらない祝福-恵みの法則、愛の法則

つまり、神様の祝福、本当の祝福は、世の法則などに全くあてはまらない祝福なんだということをぜひ覚えていただきましょう。世の法則に当てはまりません。だから世の見方、人々の意見や予想、考え方、その概念などで見るといつもはずれになるのです。クリスチャンでも。だからそこをまずクリスチャンの私たちが変えていかないとはいけません。神様の祝福は、世の法則、さまざまな法則がありますが、それを全部まとめると因果応報の法則なのです。世の中は神を離れて神様がいらっしゃるから人間が中心なのです。2部礼拝でもそういうことを申し上げますが、人間が中心なのでそこから全部が生まれてくるわけです。法則というものが。それに私たちは支配されて、それが脳に刻印されて、そういう見方を持って人

生を生きてきた者なのです。そこに神の祝福が臨まれることで造り変えられたのですが、脳細胞に刻印されている見方は以前と変わっていないので、自分が祝福されたという確信と自負がなかなか持てないのです。依然と過去に振り回され、今現在、現実のさまざまな状況にとらわれ、希望の未来に向かって、答えの未来に向かって進むことができなくなります。時間は流れますよ。未来に向かって。しかし、神様が用意されている答えの未来、本当に神の国のことが現れる未来とは関係ない時間が流れるようになってしまいます。残念ながら。だから神様の祝福がどんなものなのか、まずは人々の世の中の見方を裏切る祝福だということをぜひ心に留めましょう。それで聖書は神様の祝福のことを世の中ではどのようなことばでも、どのような理論や何かの概念でも説明することができない恵みの法則と教えています。愛の法則。恵み、愛という言葉はありますよ。ありますけれども、世の中に神様の恵み、私たちの祝福のために動く神の恵み、神様の愛という概念は存在しません。ないものなのです。だから世の中にある何かと一緒に比べて、そこにあてはめて理解しようとする、死ぬときまで理解できません。恵みの法則、愛の法則、だからヨハネ3：16を見ますと、「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに世を愛された。それは御子を信じる者が、一人として滅びることなく」、本当は滅びることが決まっているものなのに、そこに祝福が与えられるのです。世の中の予想では滅びることは決まっている、滅びるしかない存在に祝福が与えられるという概念がありません。因果応報の法則にはそういうことは存在しません。なのに、神様の祝福はそういうものなのです。ローマ8：2にも「なぜなら、キリスト・イエスにあるいのちの御霊の律法が」。世の中には死と罪の原理しかありません。しかし、神の祝福はそこに当てはまらない、いのちと御霊の原理によって与えられるものなのです。今まで自分がまた私たちがこれはこれだ、あれはあれだと思っていた全部は偽りなのです。あてにしてはいけません。なかなか脳細胞からそれが取れないのです。だからみことばに集中しないとはいけません。聖霊の働き、要塞をも破る力が自分の脳細胞に働くことを求めて祈ることが大切なのです。なぜかと言いますと、分かったから。そうでないと、2部礼拝で申し上げますが、クリスチャンなのにその人の考え方が悪霊に掌握されることになります。悔しくないのでしょうか。そうなのかどうかも気づかれないまま時間が流れるだけなのです。「なんで私には答えがないのか」ということばかりつぶやきながら。エペソ2：8にも「この恵みのゆえに、あなたがたは信仰によって救われたのです。それはあなたがたから出たことではなく、神からの賜物です」。そのように神様の法則、世の中にはない原理によって私たちは祝福されるものなのです。

3) 呪われた人、呪われる人に

言葉を極端にまとめて申し上げると、神様の祝福は呪われた人なのにそこに与えられるものです。そして、これから呪われるしかないものなのに、そこに神の祝福が与えられます。そのような考え方、見方をしたことがあるでしょうか。エペソ2：3「私たちもみな、不従順の子らの中であって、かつては自分の肉の欲の中にまみに生き、肉と心の望むことを行い、ほかの人たちと同じように、生まれながら御怒りを受けるべき子らでした」。こういう人々に神の祝福が与えられます。世の中にあるどういう理論、どのような法則、何で説明することができるのでしょうか。不可能です。だからそれをあてにしてはいけません。そのような人々の予想、世の中の法則など、すべて裏切る神の祝福のことを心から感謝しなければいけません。信じる以外に何もありません。でも、そのような祝福、そういう恵みの法則の他に、私たちに祝福が与えられる方法などはありませんということに気がつかなければいけません。

4) 祝福不可能な人間の実体-無条件の祝福

それはなぜかと言いますと、人間そのものが神の祝福と縁のない祝福不可能な存在なのです。それを罪人と言います。そのような祝福不可能な人間の実体が何かわかれば、世の中にある祝福の概念、法則、原理など全部壊れて、全部偽りとなり、神の恵みの法則の他には祝福の法則はありえないという結論に辿り着くことになります。イエス様が一人息子が死んで、その悲しんでいるやもめの方に近づいて、そこで祝福を与えられたということは、そういうことのメッセージなのです。ただやもめ一人を助けたという意味ではなくて、それが私たち人間なのです。神様を離れてしまった人間というのは、そのような存在です。普通の人が見ると、世の中の法則や見方で見ると、祝福とは縁のない呪われた人であり、滅びて当然な存在なのに、そこにわざわざ神様が自ら訪ねて来られるわけです。これが神様の祝福です。私たちが祝福されるべき何か良いもの、良いところがあって、神様がそれを見てそうかと思い、なるほどと頷いて祝福を与えられたわけではありません。とんでもありません。自分が人間がどんな存在なのか分かっていないか

ら。教会に通っていながらも、そこに目が開かれないうと 20 年、30 年、教会に通っていても、神の祝福が自分のものなのかどうか、また祝福そのものに対しての理解も違いうし概念も全然違いうことになつて、無駄な時間が流れることになります。ただ無駄な時間が流れるだけであればいいけれども、目に見えない悪霊に操られる人生を送ってしまうことになります。なんと残念なのでしょう。レムナント教会の皆さんは、今日限り、そのような人生を終わりにしましょう。自分の環境があまりよくないから、自分の過去がこうだったので、生まれ育つた環境がこうだったので、こういうつらい経験があつたから私は祝福されてないと思うことは悪魔の偽りなのです。脳細胞にそのように偽りが刻印されているので性格も変わり、人生そのものがねじ曲がることになるわけです。小さい時からそこに悪霊が働くわけです。みことばを通して自分の思いを捨てて、自分の理解と考えを捨てて、神のみことばを握りましょう。人間というのはやめめだけではなくて、外見がどうであれ、人々が祝福されただね、呪われたただねといろいろな評価があるかもしれませんが、全く関係なくすべての人は、あなたがたは、あなたがたの父である悪魔から出たものである、そういうものなのです。そういうものに祝福が与えられるわけです。理解できるでしょうか。だから既存の概念を持っているから、この神の祝福に対してあまり確信が持てないわけです。ありえないことだから。神様が皆さんを祝福されましたと言われてもありがたいのですがピンとこないのです。以前の概念をそのまま持っているから。祝福に対して世の中の見方をそのまま持っているから。それで見ると話はあるがたのですが、あり得ないよ、それはと。だから、みことばが自分のものにならないのです。先ほども読みましたが、私たちは自分の罪過と罪との中にあつて死んでいたものであつて、死んでいたということは恐ろしい話なのです。だから何をどうしても悪魔に従うしかないものになるのです。生まれながら神の御怒りを受けるしかない子として生まれたものだから。自分なりに幸せになるために、成功ある人生になるために、何かの目標を立てて一生懸命頑張るけれども、形がどうであれ、結局は疲れて重荷を負ってむなしい人生を送るしかない、そういう存在でした。そこに神の祝福が与えられる、それが祝福なのです。因果応報的なことは全部消すように。それで結局、人間には一度死ぬことと、死後にはさばきを受けることが定まっている。そういう人間に神は祝福を与られます。ローマ 3 : 10-12 を見ますと、「次のように書いてあるとおりです。「義人はいない。一人もない。悟る者はいない。神を求める者はいない。すべての者が離れて行き、だれもかれも無用の者となった。善を行う者はいない。だれ一人いない」。だれがでしょうか。23 節には「すべての人は罪を犯して、神の栄光を受けることができず」。私、自分自身が祝福不可能なこのような呪われたものだということを認めないといけません。神の祝福はそういう者に与えられるのです。不思議な祝福です。それで聖書は無条件の祝福と言います。人間の条件どうのこうのということでは最初から不可能なので、無条件の神の祝福なのです。それが今日の聖書を通して私たちに示されることになりました。なので、人間の祝福というものは、もともと祝福不可能な存在なので、自分の方から祝福云々ということは見ることも調べることも取り上げることもできない存在なので、もはや存在しません。

5) キリストに祝福(すべて)を込めて

私の祝福はどこにあるかと言いますと、神様がキリストにこの祝福を込めて、キリストを私たちに与えられることで、そのキリストを受け入れると私は祝福されることになります。私たちのなにか、どうするかによって左右されるものではありません。分かりますか。何も考えずに戻らずに、最悪な状況になってやまめの人々がそれだけでも呪われたと指さされる人生を送っていたのに一人息子が死んでしまった最悪な絶対不可能な状況の中で、イエス様がそこに近づいてきて、そのすべてをひっくり返しました。普通の人はびっくりしたのですがありえないことなのです。でもイエス様は、この世に來られて三年の間、ありえないことばかりなさっていました。それが神様の祝福なのです。人々がずっと勘違いしていただけてあつて、神様の祝福は人々の予想、考えを全部裏切る無条件の愛の祝福なのです。それを確認しないといけません。しかも神様はキリストに神の祝福を込めて私たちに与えるのですが、そのキリストに天にあるすべての祝福を全部込められて私たちに与えられる方なのです。無条件に。なぜでしょうか。私たちは不可能だから。私は呪われたものだから。そのまま放っておくと呪われるしかないものなのです。先週も申し上げましたように、私は地獄なのです。地獄のような体験をしているからではなくて、自分の根本は地獄なのです。だから私は祝福とは最初から無縁なのです。なのに祝福されました。だから普通の感覚では信じられないでしょう。なかなかあり得ないと思うしかないでしょう。しかし、神の祝福は、人々の予想、法則を裏切る無条件の愛の祝福なんだということを改めて確認しないといけません。

それでこのメッセージを握って自分自身を顧みて祝福に対して自分はどのような見方、考え方をしているのか、それを全部捨てましょう。捨てないといけません。私は小さい頃、母親が病気で早く死んでしまい、おばあさんに育てられました。小さい頃はそれが何かよく分かりませんでしたが、でも自分は不幸なものだと思っていたわけです。心のどこかで。四輪タイヤによって車が動きますが、タイヤが一個抜けて動くような、そういうものだという感覚を持っていたわけです。なぜでしょうか。祝福と不幸に対しての概念がそういうものしかなかったのです。親に捨てられるから不幸なのでしょうか。貧乏だから祝福と縁がないのでしょうか。IQが低いから、頭が悪いから祝福とは関係ない人生になるのでしょうか。だから祝福されるためにIQを磨いて頭を磨いて一生懸命、塾に通いながら勉強しているのでしょうか。でも、なかなか頑張ってもできないとあきらめて爆発するのでしょうか。それがすべて悪魔のしわざなのです。祝福はそういうものではありません。もともと祝福不可能な存在です。親に捨てられていない親に愛され愛情たっぷりいただいて育っている子どもでも呪われたものなのです。何んで比べて何で比較するのでしょうか。悪魔のしわざなのです。私たちを捕らえて祝福の神の子どもとしての勝利の人生を歩けないようにする悪魔のしわざであることを忘れてはいけません。だから、みことばを通して神様の祝福に対して、自分のどのような過去があろうが、今現在、どのような状況であろうが、それは自分の祝福を左右することはできないんだと宣言しなければいけません。どんないじめにあったのでしょうか。どういう病を経験したのでしょうか。誰に裏切られて、誰に捨てられた経験があるのでしょうか。それは私の祝福とは関係あらへんね。そこを宣言しないといけません。それがみことばを心に蓄えたということなのです。耳で聞いて、ふーんそうか。それでこの教会から離れるときには今までの自分なのです。育ちの環境があまりほかの人と比べて良くないから、私は元々そんなもんですよ。いいことを考えてもしょうがない。ずっとそういう感じ。自分を自分でいじめるわけです。どのような過去、現在も自分の祝福を左右することはできないんだ。祝福は自分のどうのこうのと関係なく、キリストにのみ祝福があり、救いがあり、いのちがあるんだ。だから、そのキリストを受け入れてキリストある自分は祝福された人なんだ。過去がどうであれ、状況がどうであれ、やもめであれ、一人息子が死んだのかどうか、最悪な状況なのかどうか関係ありません。もともと私たちは悪魔の子であり、地獄の子なのです。祝福とはこれっぽっちも縁のない、そういう人間でした。ほかの人と比べて少し条件に恵まれているから私は祝福されたんだなと思うと、それも勘違いです。それも引き落とされますよ、結局は。

なので、このことをしっかり覚えてキリスト・イエスに会って私は祝福された人と宣言するだけでなく、これをスタートラインにしなければなりません。どんな過去があろうが、今現在どういう状況であろうが、自分がどんなに弱い人間であろうが、親がいるかいらないか、虐待があるかどうか関係なく、まずそれは祝福と関係ないから。つらいでしょう、大変でしょうけれども。ヨセフは奴隷として売られ、濡れ衣を着せられた時に大変な経験をしましたが、心の平安は奪われませんでした。自分が祝福されたということは揺れませんでした。それが勝利の力なのです。ここをスタートラインにしないといけません。勉強が少しくまういかなかった。それで沈んでしまう。もちろん勉強しないといけません。その前にスタートが間違っているのではないのでしょうか。私は祝福された人。だから、祝福の以下はありません。これから祝福を味わい、祝福の答えが具体的に現れることだけが残っている人生なのです。でもスタートラインに立っていないから、悪いことがあればすぐ悪い。嫌なことがあればすぐ嫌。それでそのまま引きずられてしまうので悪魔にやられるしかありません。スタートラインにしないといけません。違いますか。皆さん、今どのような問題、どういう状況なのでしょう。にもかかわらず、私は祝福された。それと祝福とは関係ありません。祝福はキリストなのです。わかりますか。だから刑務所の中でいつ死ぬか分からない状況でも、パウロのスタートは、私には天にある霊的すべての祝福が与えられている。ここがスタートだったのです。死の影の谷を歩きながら、逃亡の生活をして大変な思いをしているダビデでありましたけれども、大変な思いがスタートではなくて、私は祝福された。害を受けることができない。主は私の牧場の羊飼いです。私に乏しいことはありません、がスタートでした。これが戦いです。どんな過去があったのでしょうか。それが未だに皆さんの脳細胞に残って、皆さんをいじっているでしょう。そこをキリストの御名によって断ち切って、それは私の祝福とは関係ない、関係ない、関係ない。キリストだけが祝福なんだ。私は祝福された。お前のようなものが、何が祝福なのか。呪われた者に与えられる。地獄に与えられるんだ。それが神の祝福なんだ。その根拠はキリストです。だから私は祝福された。自分に対しての否定的な思い

や自分でもコントロールできないほど悪霊に操られる時間が長くなっている場合は、結構戦わないといけないのです。でもまず、このみことばをしっかり握って、そうだ。今まで自分は間違っていたんだ。自分の考えは全部間違っている。みことばに頼ろう。みことば、それが救われた証拠なのです。今まで自分しかいないから、自分の考えがすべてだったのでしょうけれども。それは神様のいない自分の考えなので、世の中では通じるもっともな考えもあるでしょうが、全部神様抜きにして生まれたものなので、全部否定してもかなわないのです。だからこそ神のみことばに耳を傾けて、神様はなんとおっしゃっているのか。神の考えは何なのか。神の願いは何なのか。神様が好きなのは何なのか、それを見ようと、聞こうとする気になるでしょう。礼拝を捧げていても自分の考えにとらわれている限りは、聞いていてもここで空転して言葉が全部飛んでしまいます。みことばにすべてがあります。神様は皆さんをみことばによって癒されて、癒されると周りから見て分かるようになります。それで皆さんを現場の証人として用いられる計画を持っていらっしゃる。つまり、皆さん一人が整えられ変われば全部が変わります。誰のせいでもないし、何かを言い訳にする理由などありません。それが福音の力なのです。自分ひとりで充分なのです。そのスタートは何でしょうか。自分は祝福された人なんだ。その祝福も世の中で言っているような、そういうことではなくて、神の祝福、誰も奪うことができない永遠のいのちの祝福、御座の祝福、人々を生かすことができる祝福。そのように祝福された。祝福されたらスタートなので、自分に対して暗いことを考えるということは合わないものなのです。元々が。理論でなくて。それで今まで自分が分かっている自分、人々が知っている自分は十字架とともに死にました。ガラテヤ2:20をずっと皆さんのものにするように。私が思っている自分、世の中の法則に照らして思われていた自分というものは、十字架とともに死にました。今の私はキリストにあって新しく作り変えられて祝福されたものなのです。だからどこに視線が行くべきなの。過去、何があったのかどうか、現実がどうなのかではなくて、その祝福は何だろうというところに一番のフォーカスが行かないといけません。たとえいま治らない病気にかかったとしても病気を忘れるぐらい。思い煩いを捨てて、もがくことも悩むことも全部やめて、高慢も自慢も落胆も全部やめて、信者であれば祝福されたをスタートにすれば、必ず使徒1:7-8の上に立つようになります。それはあなたがたは知らなくてもいいよ。今までこだわっていた、知らなくてもいいよ。あなたは祝福されるものだから、Only 聖霊が臨まれると、みことばを握って聖霊の力が与えられる、聖霊に満たされるように、聖霊の息が吹き込まれるように、それを祈るだけです。となると、その人の人生は征服者の人生、人々を生かす人生、神の国のことが現れる人生、神の国のことが現れるというのは何でしょうか。その人によって悪霊が追い出されて聖霊の働きがそこに現れる。どこに行ってもその人がキリストのからだなる教会としてそこに立つようになる。サタンが一番恐れる人としてそのような人生を歩くようになります。

タイトルを改めて覚えましょう。人々の自分の予想と考えを全部裏切る神の祝福。キリスト。だから私は祝福されるものだ。皆さん朝、目覚める時に、柳先生がよくそのときから祈れば良いとおっしゃいます。なにを祈るのでしょうか。願うのではなくて、この祝福を思い出してそれが豊かになるようにと祈るのです。私は祝福されたものだ。目覚めた時に、その宣言からスタートする。それがスタートなのです。どのような悩み事があるのでしょうか。その悩み事を解決することがスタートでもなく、それを見て悩むこともスタートではなく、まあ忘れよう、そういうこともスタートではなく、私は祝福されたものなんだ。だからこの悩み事は私にとって悩みにならない。乏しい事などありません。それでこそ神のみことばを聞き、神の計画が見えてきて、Only が見えてくるようになるでしょう。それだけでも目に見えない暗闇が砕かれて、悪霊が去っていくことになります。そこに神様の御業が見られることになります。25の神のわざが私たちの力と限界をはりかに超えて。それがクリスチャンです。そのためにぜひ私は祝福されたい。なかなか否定的な思いに長い間刻印されている人は、それを素直に認めて、機会があるたびに、あるいはわざとキリストに会って集中してみてください。今日のメッセージそのままなのです。自分の予想を裏切る祝福だから。自分の今までの考え方を全部捨てて、キリストにあって私は祝福された。私は祝福された。そこがスタートなんだとずっと言い聞かせるように。それを集中と言います。そのときに一瞬、そのみことばと聖霊の働きがマッチした時に、皆さんの人生に爆発が起きることになります。使徒の働きにある、聖霊が臨まれると力を得てという言葉の言語を見ると、ダイナマイトという言葉がそこにあるのです。聖霊の働きによって皆さんの人生に爆発が起きることになります。そういう主人公であることを今週1週間も具体的に味わうことを祈りたいと思います。

(祈り)

恵み深い父なる神様。ありがとうございます。クリスチャンなのに祝福の確信と喜びをもって宣言することができていないこと、それをスタートにしていなかったことが悪魔の見事なしわざであることを覚えて、自分の考え、世の中の概念などを全部裏切って、ただキリストだけで、呪われた者に与えられる神様の永遠なる最高の祝福が自分のものであることを確信して宣言して、そこからスタートする霊的な戦いができるようにひとりひとりを祝福してください。イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。アーメン。